第 15 講　近　世（江戸幕府の発展）

Step 1

1　次の問いに答えなさい。

(1)　五街道のうち，江戸幕府が最も重視したのはどの街道か。

(2)　江戸・大坂・京都は合わせて何とよばれたか。

(3)　現代でいう銀行の役割を果たした商人を何というか。

(4)　生類憐みの令を出し，「犬公方」とよばれた将軍は何代目の誰か。

(5)　6・7代将軍を補佐し「正徳の治」を行った新井白石は，何という学問の学者であったか。

(6)　8代将軍吉宗が幕領〔天領〕で実施した，(「検見法」にかわる) 収穫量に関係なく年貢を徴収する方法を何というか。

(7)　田沼時代に発生した「三大ききん」の1つを何というか。

(8)　聖堂学問所は，幕府直営とされた後，何という名称になったか。

(9)　シーボルトが長崎郊外に開いた診療所・塾を何というか。

(10)　1804年，長崎に来航し通商を要求したロシア人とは誰か。

(11)　11代将軍家斉が異国船打払令を出したのは西暦何年か。

(12)　三大改革の最後で「天保の改革」を実施した老中とは誰か。

Step　2

2　次のA～Cについて，表1～3の(①)～(③)に当てはまるものを，それぞれア～ウから選びなさい。

A　表1　江戸時代の藩の名と，その藩があった場所の現在の県の名

藩の名	土佐藩	長州藩	薩摩藩
県の名	(①)	(②)	(③)

ア　山口県　　イ　鹿児島県　　ウ　高知県

B　表2　江戸時代の人物の名と，その人物の作品の名

人物の名	十返舎一九	滝沢馬琴	葛飾北斎
作品の名	(①)	(②)	(③)

ア　東海道中膝栗毛　　イ　富嶽三十六景　　ウ　南総里見八犬伝

C　表3　江戸時代の将軍の名と，その将軍が在位していた期間のできごと

将軍の名	徳川家光	徳川綱吉	徳川吉宗
できごと	(①)	(②)	(③)

ア　享保の改革が行われた。

イ　島原・天草一揆がおこった。

ウ　生類憐(しょうるいあわれ)みの令が出された。

【北海道】

3　江戸時代までの日本の文化に関する文章を読み，あとの問いに答えなさい。

日本では大陸との交流を通じて文化が形成されてきた。中国の歴史書には，3世紀前半に倭から使いが送られたことが書かれている。朝鮮半島からは漢字や儒教，仏教が伝えられた。推古天皇の頃には仏教を中心とした文化が栄え，天武天皇の頃には唐の文化の影響を受けた。聖武天皇の頃には仏教や大陸の影響を受けた国際色豊かな文化が花開いたが，平安時代になり遣唐使が停止されると，貴族の間では日本の風土や生活に合わせた文化が生まれた。

鎌倉時代には質素で素朴な武士の気風を反映した文化が栄え，室町時代には貴族と武士の文化の一体化が進み，金閣や銀閣が建てられた。安土桃山時代になると，大名の権力や商人の経済力を背景にして雄大で豪華な文化が生み出された。a江戸時代には，社会が安定していく中で町人が文化のにない手となり，前期のb元禄文化は上方を中心に，後期の化政文化は江戸を中心に栄え，交通の発達によって地方にも広がりを見せた。

(1)　下線部aに関して，この時代の社会のようすについて述べた文として適切なものを，次のア〜エから1つ選んで，その符号を書きなさい。

ア　商人や手工業者によって同業者ごとに座がつくられるようになった。

イ　町衆とよばれる有力な商工業者によって自治を行う都市があらわれた。

ウ　寺社の門前や交通の便のよいところに定期市が開かれるようになった。

エ　西まわり航路や東まわり航路が整備され，船での輸送がさかんになった。

(2)　下線部bに関して，図のような美人画など町人の風俗をえがいた絵画を何というか，次のア〜エから1つ選んで，その符号を書きなさい。

ア　水墨画　　イ　浮世絵　　ウ　絵巻物　　エ　装飾画

図

【兵庫県】

Step　3

4　次の文中の［a］，［b］に当てはまる語の組み合わせを，あとのア～エの中から一つ選んで，その記号を書きなさい。また，18世紀後半に老中（ろうじゅう）の田沼意次（たぬまおきつぐ）が，幕府の財政立て直しのために推（お）し進めた政策の内容について，「株仲間（かぶなかま）」，「貿易」という語を用いて書きなさい。

江戸幕府は［a］を定めて，築城（ちくじょう），結婚，参勤交代（さんきんこうたい）のきまりを整え，大名を統制した。また農民に対しては［b］をつくらせて，年貢（ねんぐ）の納入や犯罪の防止に連帯で責任を負わせた。

ア　［a　公事方御定書（くじかたおさだめがき）　b　五人組（ごにんぐみ）］
イ　［a　公事方御定書　b　惣（そう）（惣村（そうそん））］
ウ　［a　武家諸法度（ぶけしょはっと）　b　五人組］
エ　［a　武家諸法度　b　惣（惣村）］

【茨城県】

5　次の文章を読み，あとの各問に答えよ。

食は，人々が生命を維持し，活動し，成長するために欠かせないものである。人々は，自分たちの住む地域の気候風土を生かし，知恵と工夫により，食生活を豊かなものにしてきた。

我が国の人々は，四季折々に採集できる植物，狩猟で捕えた動物や魚介類を食材としていた。その後，植物の栽培，土器を使った煮炊きや保存などの食に関する技術を向上させるとともに，外国から伝えられた様々な食文化を生活に取り入れることで，食生活を多様化させてきた。

一方で，農業技術の向上や肥料の使用などにより，農業の生産力が高まる中，(1)各地に様々な食に関する特産物が生まれるとともに，やがて，その中から，販売し現金収入を得ることを目的に作られる特産物も出てきた。特に江戸時代には，(2)交通路がより一層整備され，食に関する特産物が広範囲に流通するようになり，地域の食文化に大きな影響を与えた。

明治時代以降は，諸外国との関係が一層強まり，国際関係の変化が我が国の食生活にも大きな影響を与える中で，政府は国民の食生活に大きく関わるようになった。

〔問１〕(1)各地に様々な食に関する特産物が生まれるとともに，やがて，その中から，販売し現金収入を得ることを目的に作られる特産物も出てきた。とあるが，次のⅠの略年表は，室町時代から江戸時代にかけての，我が国の食に関する特産物についての主な出来事をまとめたものである。Ⅱの文は，食に関する特産物について述べたものである。Ⅱの文で述べている経済活動が行われた時期に当てはまるのは，略年表中のア～エの時期のうちではどれか。

Ⅰ

西暦	食に関する特産物についての主な出来事	
1351	●法隆寺（ほうりゅうじ）の食事にそうめんやうどんが出される。	
		ア
1477	●江戸の市場で安房国（あわ）（千葉県）の米，常陸国（ひたち）（茨城県）の茶が販売される。	
		イ
1580	●紀伊国（きい）（和歌山県）の僧が，織田信長（おだのぶなが）にみかんを贈る。	
		ウ
1735	●青木昆陽（あおきこんよう）が，さつまいもの栽培普及を積極的に勧める「甘藷記（かんしょき）」を著す。	
		エ
1859	●長崎の実業家が，イギリスへ日本茶を輸出する。	

Ⅱ

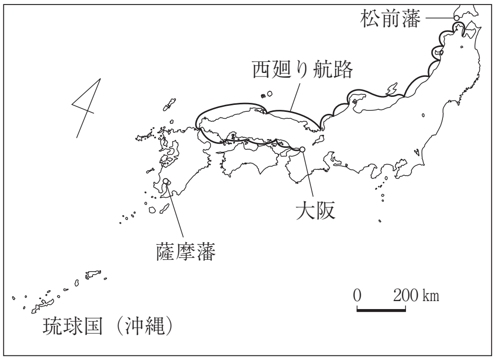
酒は，主に京都や大阪を中心とする上方（かみがた）で生産されたが，参勤交代の制度が定められた時期には，江戸に出店し，幕府に酒を納入する商人もいた。

〔問２〕 (2)交通路がより一層整備され，食に関する特産物が広範囲に流通するようになり，地域の食文化に大きな影響を与えた。とあるが，次のⅠの文章は，沖縄の伝統料理とその食材についてまとめたものである。Ⅱの略地図は，江戸時代の日本の海上交通路の一部を示したものである。Ⅲの略年表は，江戸時代の日本の海上交通路，薩摩(さつま)藩，松前(まつまえ)藩に関する主な出来事についてまとめたものである。沖縄でとれない食材を使った料理が沖縄で作ることができた理由を，Ⅰ～Ⅲの資料を活用し，特産物の流通に着目して，簡単に述べよ。

Ⅰ

○沖縄の伝統料理の一つにクーブイリチーがある。
○クーブイリチーは，水で戻した刻み昆布，豚肉，こんにゃく，油揚げ，かまぼこなどを混ぜて炒(いた)め煮にしたものである。
○クーブイリチーの食材の一つである昆布は，主に北海道でとれ，沖縄ではとれない。

Ⅱ



Ⅲ

西暦	江戸時代の日本の海上交通路，薩摩藩，松前藩に関する主な出来事
1604	●松前藩がアイヌ交易の独占権を認められ，鮭(さけ)や昆布，毛皮などを本州の商人に販売した。
1609	●薩摩藩が琉球(りゅうきゅう)国（沖縄）を支配した。
1672	●幕府の命令を受けた河村瑞賢(かわむらずいけん)が西(にし)廻(まわ)り航路を開いた。
1713	●薩摩藩が黒砂糖を大阪へ初めて積み出した。
1788	●薩摩藩が琉球国（沖縄）の黒砂糖を大阪で販売し，大阪で購入した昆布を琉球国（沖縄）で販売した。
1830	●薩摩藩が黒砂糖の販売権を独占した。

（「鹿児島県史」などより作成）

【東京都】

第15講　近　世（江戸幕府の発展）

Step　1

1 (1) 東海道　(2) 三都　(3) 両替商　(4) 5代（徳川）綱吉　(5) 朱子学〔儒学〕 (6) 定免法
(7) 天明のききん　(8) 昌平坂学問所　(9) 鳴滝塾　(10) レザノフ　(11) 1825年　(12) 水野忠邦

Step　2

2 A. ①ウ　②ア　③イ　B. ①ア　②ウ　③イ　C. ①イ　②ウ　③ア

3 (1) エ　(2) イ

Step　3

4 （記号）ウ　（説明）株仲間に営業の独占を認め，営業税を納めさせた。また，長崎での貿易を盛んにして幕府の収入を増やそうとした。(同意可)

5 〔問1〕ウ　〔問2〕幕府による西廻り航路の整備に伴い，大阪(または，大坂)に運ばれた松前藩の特産物である昆布を，薩摩(または，薩摩)藩が琉球国に持ち込んだから。(同意可)